

次に價格のことに付て御話しますが、大正二年三年四年此三年間は御承知の通り不景氣の時代でありまして、餘り澤山使つた年でありませぬが先づ其平均で推定しまして、私は日本に於ける電氣機械用薄鐵板の消費は一個年三千噸乃至四千噸と思ひます、價格にして七拾萬圓から百萬圓の間と見て居ます、芝浦製作所にての買値段はコンモンステール十ポンドに就き七圓から九圓位、シリコンステールは十三圓から十三圓五拾錢であります、但し近頃買入れたのは二割位高くなつて居ます。

過去十個年の統計に依りますと電氣機械の需用は三年倍増に進んで居ますから薄鐵板の消費量も亦た三年倍増に進むものと見れば三年後には一個年の消費量は六千噸乃至八千噸位に増すものと思ひます、而かも昨今の様に外國製機械が殆んど輸入されず内地製機械の需用が盛んであれば此割合は更に増加することは明であります、是丈のことを申上げて薄鐵板工場を計畫される方の御参考にしたいと思ひます、尙鐵板のことに就ては芝浦製作所の技師黄金井工學士が大正三年に電氣學會で演説されてあります、同學會誌第三百十三號に載てありますからそれを御覽下されば更に御参考になることと思ひます。(拍手)

### 鐵鋼の獨立自給策に對する討議

工學士 清水連郎

私は通告をして置きましたが、別段に申上げる程のことでもなかつたのであります、唯皆さんのお説が出ます前に一寸と註文を申上度いと思つて居りましたが、今の時刻となつては私の申上げる用がないやうな事になりました、併し此處へ出ました序でに一寸申しますが、今迄のお話は永久の自給策と云ふことが重ものやうで、目下の急務に對する自給策と云ふ事に就いてのお話は甚だ少かつたやうに考へます、私は目下の急務に必要なことに付て、何か具體的のお話があつたら、参考になるだらうと思つて、出て參りましたのですけれども、其のお話が少い、多少は耳に這入りましたが、纏たお話は伺へなかつた、尤も目下の急務を救ふと云ふことに付て、前にお話があつたさうであります

すが、遅く出たので伺ひませんでした、先づ今迄のお話は、丁度是迄道樂を散々してたので今になつて苦しくなつて来た者に對して、今迄が悪いから仕方がない行く所迄行けば、仕舞にはどうか食へるやうになるだらうと云ふお話であるが、是では情ないことで、親切な伯父さんが可愛い道樂な甥に意見をやるやうに何とか救ふお話を言て戴きたいと思ふ、所で皆さんの應急の策は、詰り窮すれば達するから其窮した時で宜いでないかと云ふことであるが、其窮するを待たないで策を立てるのが、所謂策であらう、行詰つてやるよりも、多少でも餘裕のある時にやつた方が宜いではないか、此事に付て諸君の御名案を伺ひたいと思ふ、金を減らしてもう一月か二月しか保てぬ、生活して行くには何か策を考へなければならぬと云ふ、場合に於ては、先づ何とかして収入を増加せねばならぬ、それから支出を節約しなければならぬ、此場合には策は此二つに極つて居ります、今日の鐵の自給策も同じで、先づ出来るだけ鐵の生産を増して供給を多くする事である前の譬の場合で云へば働くとか持て居る不用の物を賣るとかして金を造ると云ふ方法を立てなければならぬ、又一方には出来るだけ節約して、前の譬の場合で云へばフランクリンのやうに水のみで「パン」を食うやうに節約したら幾らかの餘裕も出てくるのである、それで供給を多くするには出来るだけの方法を用うべきで、鐵の製作を奨励することも、技術上の知識を増すことも、金錢上の補助をすることも、必要でありませうし、其他の方法を設けて生産を發達させることも必要でありませう、一方に於てはさう云ふ風に種々な方法を設けて供給を盛ならしめ、他の一方に於ては、出來た物を出来るだけ節約して使て行く、例へば今日は非造らぬでも宜いと云ふものならば、延期をする代用品で間に合ふものは間に合はせると云ふやうな方法を以て、目下の急を救つて行くが必要であらうかと思ふ、次に私は特許辯理士で常に發明に關係して居りますが鐵の自給策に就ても、發明と云ふことは、肝腎な事ではなからうか、鐵に關して此際發明の奨勵をしなければならぬと思ふか、「アルミニウム」の如きも今日の製法が發明されてから價格が安くなつた、供給も多くなつた、かやうに、鐵に付ても今の製造方法が理想で、是より以上はどうもならぬと云ふことは疑問である、恐らくは一層良い方法が發明されぬとは云へぬ、發明と云ふものは人の豫期しない所にあるので、夫が發明であります、發明が進んだらどう云ふことをするか分らぬ、飛行機は今より五

十年前にはなかつた、我々が空中を歩くと云ことは思ひも寄らぬことであつた、今日は誰も何とも思つて居りませぬ、一昨夜の如きは雄飛號が通つても東京では顧みる者もなかつた程であります、昔は夢にも知らなかつたことでもあります、こう云ふ風に發明と云ふものは意想外であります、鐵と云ふものに付ても、どう云ふ發明が、どう云ふ所からどう出るか分らぬ、思ひも寄らぬ簡便な經濟的な製作方法が出て來ないとは限りませぬ、それ故發明の獎勵と云ふことは、鐵の自給策に付ても急務であると思ふ、世の諺にも「モウ」が「マダ」と云ふことがあります、「モウ、モウ」間に合はぬと云ふても「マダ、マダ」遅くはありませぬ、此際、鐵の冶金に付て發明を獎勵するのが必要かと思ひます、それで私の自給策の一を具體的に言へば、一方に於ては鐵の製作若しくは冶金に付て發明を獎勵する方法を取り他の一方に於ては鐵を節約して使用すること、并に鐵の代りに他の豊富なる物を用ひると云ふことに就ての考案を獎勵したならば實際的自給策になりはせぬかと思ひますので、聊か諸君の清聽を汚した次第でございます。(拍手)

### 鐵鋼の獨立自給策に對する討議

笹村萬藏

私は只今御紹介になりました新潟鐵工所の笹村であります、私も鐵の缺乏に付ては非常に苦痛に感じて居る一人であります、此の焦眉の急を濟ふ御名案を聞くべく昨夜態々夜行て此會に出ました次第であります、先刻來根本的問題に付てのお話は種々貴重なる御演説がありまして満足しましたが、只今鐵工業者が差當り最も苦痛を感じて居ります應急的材料供給方法に付ては餘りお話が少いので聊か失望しましたが、是より追々お話があるやうに願ひたいのであります我々も三木君のお話のやうに民間工場にては製鐵所よりインゴットなりピレットなり原料の供給を願ひ各種の材料を各分業で製造するのも一種の方法と思ひます、是は野呂博士のお話の根本的自給方法には矛盾することでありませんが應急の策として差當り己むを得ないと思ひます、もう一つ考へて居りますのは船腹の不足と云ふことが料を運搬することの出來ぬ原因と思ひます、果して亞米利加が賣止になつて材料の供給が出來ぬならば仕方がありま